



桜川市真壁町上谷貝

鹿島神社本殿

2月 葺き替え工事が
始まりました

【第5回】 鹿島神社の茅葺屋根

実は、^{カヤ}「茅」という名称の植物は存在しません。ススキやヨシ、チガヤなどの屋根を葺く材料を総称してそう呼んでいます。一般的に茅葺屋根に使用されるのはススキで、^{ヤマガヤ}「山茅」とも呼ばれます。山茅は長く丈夫で持ちが良いのが特徴で、今回の葺き替え工事で使用するの長野産と御殿場産のものだそうです。

今回、茅葺屋根を解体したところ、^{シマガヤ}山茅のほかに「島茅」が使用されていることが分かりました。島茅とは霞ヶ浦周辺の湿地に生育するカモノハシというイネ科の植物を主体とした茅のことで、茅葺屋根に島茅が使われるのはこの地域の茅葺屋根を持つ建造物に見られる特徴のひとつです。島茅は山茅より目が細かくしなやかなので、美しく繊細な仕上がりになるそうです。

元が島茅だったので、新しい屋根にも一部、霞ヶ浦産の島茅を使用します。



島茅が使用されるのは、最も下地に近い部分です。断面を見ても、上層の茅より目が細かいことが分かります。

茅葺屋根は、茅を勾配をつけて葺くことによって、内部への雨水の侵入を防いでいます。茅自体、撥水性に優れていて、屋根に降った雨水も基本的には蒸発してしましますが、最下層に、より通気性に優れた島茅を使用することで、さらに水はけをよくする工夫がされています。



山茅

背丈が倍近く違って
いて一目瞭然！

島茅

のきづけ
「軒付」という、軒先に茅を分厚く重ねていく作業
の途中。軒先だけで6層に茅を重ねます。今回の工
事の全工程で使用する茅の総数はなんと約1100束！

